

# 自尊感情の育成を基盤にした確かな学力の向上をめざして

～個別の教育的ニーズに応じた指導・支援の展開～

盛岡市立厨川中学校

〒020-0133  
岩手県盛岡市青山2丁目7-1

<http://www2.schoolweb.ne.jp/>

## 1 はじめに

本校は岩手県都盛岡市の北部に位置し、全校生徒650名超、少子化による学級減、統廃合が目立つ県内では、大規模校にあたる。本校が建つ青山地区は戦後引き揚げ者が入植した地域で、学区内には県営・市営アパートが多く、児童養護施設もある。全体的には落ち着いた学校生活を送っているが、家庭での生活の質には差があるのが現状である。

平成21年度全国学力・学習調査「生徒質問紙」の結果全国平均と比べた結果、「自分にはよいところがあると思う」生徒の割合は19.3ポイント、「将来の夢を持っている」生徒の割合は8.9ポイント全国平均より低かった。自分の能力や価値を見い出せずに、夢を持たず、投げやりな行動を取ってしまう生徒、人間関係にトラブルを抱える生徒たちがこれらの、これらの数値の低さに大きく影響をしていた。

## 2. 研究の目的

自尊感情を育成するためには、人と人との関わりを通して、自分の存在を実感し、自分自身を大切に感じる体験が不可欠と考える。学校において、教師たちが生徒一人一人の現状を把握した上で、目をかけ、声をかけながら、自分が大切にされている、自分自身を大切にしようと思う心を育てていきたい。

生徒一人一人を、多くの目が見守り、声をかけていき、中学校3年間を通して育てていく校内組織を作り、機能させることとした。また、学習し、理解することの喜びを知ることによって学習する楽しさ、継続への意欲を高めさせたい。

## 3. 研究の方法

- (1) 生徒一人一人の実態を共有し、対策を立て取り組みを行う。
- (2) 生徒の「わかる」授業を行うための教師の授業力を高める研修を行う。
- (3) 開かれた学校のためのホームページを充実する。
- (4) 教師の情報共有、効率化のための機器の整備を行う。

#### 4. 研究の経過と主な内容

(1) 生徒一人一人の実態を共有し、対策を立て取り組みを行う。

校内に以下の4つの委員会を設置した。

・相談部（課題を抱えた生徒のすべての情報が出され、いずれの委員会で支援を試みるかを決める。

又、必要に応じて各委員会の取り組み状況を交流、報告し合う組織）

・特別支援委員会（主に発達障害が主訴の生徒に対し、支援計画をたてて支援を試みる組織）

・生徒指導委員会（主に生徒指導的問題行動が目立つ生徒に対して指導・支援計画をたてて指導・支援を試みる組織）

・適応委員会（主に不登校傾向の生徒に対して支援計画をたてて支援を試みる組織）

これらの組織には校長・副校長・主幹教諭・各学年主任・養護教諭・スクールカウンセラー・支援員らが、それぞれに所属し、定期的に委員会を開き、情報を共有し、対策を考えることを行った。

(2) 生徒の「わかる」授業を行うための教師の授業力を高める研修を行う。

##### ①認知特性に配慮した授業づくり

多様な教育的ニーズを持つ生徒が在籍する通常の学級の授業で、特別支援教育の視点から支援や指導法を工夫し、個別の配慮を明確にした授業づくりを行うことにより、すべての生徒が授業に参加し、わかったと実感できる授業づくりに努力した。

##### ②特別に支援が必要な生徒を把握し、継続的で効果的な支援の実現をめざして

各学級に必ずいる、特別に支援を必要とする生徒たちが、授業に参加し、理解できるように、授業力の向上と、チームティンクの場合の T2 の役割を、特別支援の研究の先進校である熊谷市立富士見中学校から校内研究会の講師を招き、全員で学習した。

(3) いごちのよい集団づくり

##### ①開かれた学校のためのホームページを充実

「開かれた学校」を目指し、ホームページの充実を図った。毎日学校の様子、生徒のがんばっている姿を発信し、地域や家庭との情報共有を図った。

##### ②データ処理の迅速化と活用

スキャナー（Scan Snap S1500FI-S1500-A）及び、マークシート（らくらくマークシート）を購入し、データ処理に活用した。今まで手作業で行っていた、全校生徒分と保護者の回答の集計処理を行った。

#### 5. 研究の実践例

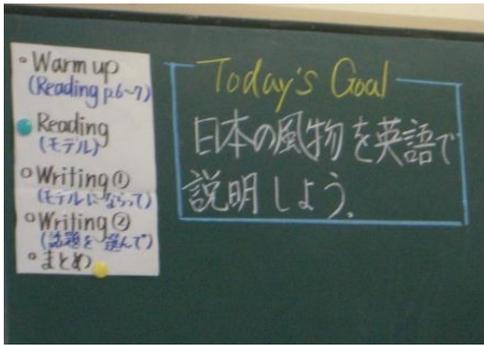
(1) 生徒一人一人の実態を共有し、対策を立て取り組み

適応委員会で立てられた支援の方向性や計画を各学年におろし、それぞれの立場で実行していった。今まで、問題を抱えている生徒について、学級担任だけで抱え込むことが多かったが、生徒一人一人の様子やその生徒に対する支援策が、他の教員にも理解できるようになることで、指導の方針が一本化した。方針を各教師が理解しそれぞれの立場で関わっていくことで、生徒の支援を進めていくことができた。

(2) 生徒の「わかる」授業を行うための教師の授業力を高める研修

##### ①認知特性に配慮した授業づくり

ア、黒板の左側に、その授業の流れをあらかじめ提示し、下位の生徒たちにも見通しが持てるようにした。授業の中でも、今、どこの段階なのかを、確認しながら進めた。



「授業の流れ」と「学習課題」

イ、流れを表す文言をどのように書くのか、迷った面もあったが、生徒にわかりやすい表現にすることを重視し、教科ごとに系統性を持たせた。

ウ、流れを書くことで、教師自身が、授業の流れを確認し、工夫することにつながった。

②特別に支援が必要な生徒を把握し、継続的で効果的な支援の実現をめざして

ア、学級にいる特別に支援が必要な生徒たちを、教師が目配りをして授業を進めていく指導力向上のために、全体研究会を行い、先進校に学んだ。子どもの気持ちを体験しながら、具体的な指導を受けることができた。限られた生徒だけではなく、すべての生徒に共通して心がけなくてはいけないこととして改めて学習することができた。

イ、T T授業を効果的に行うためには、T 2担当の教師の意識を高めることが大切と考える。T 1との連携や生徒の実態の認識をきちんと行うために、毎時間の授業記録を行った。その時間の学習課題と生徒の様子、支援した内容を記録することとした。授業終了後にはT 1と学級担任が目を通すことを習慣付けることで、生徒理解を深め、より良い支援の方法を工夫していく根拠となっている。

< 特別な支援を要する生徒に対する全体研究会 (8/1,2) >

### 講師の先生方による講義



## 教科ごとの演習



## TT授業記録（T2が記録）

月日	学習課題：	チェック欄
教科名		T1
T2名		担任

### （3）いごちのよい集団づくり

#### ①開かれた学校のためのホームページを充実

学校行事はもちろん、部活動での活躍の姿、日常の生徒たちの様子を毎日更新した。定期的に関覧する家庭や生徒も増えてきた。普段目にする事のない他学年の様子を見たり、友人のすごさを改めて確認したりすることができた。

**盛岡市立厨川中学校**

本日: 166  
昨日: 192  
累計: 13508

**やるぞ厨中！がんばる岩手！2012年3月26日**

**カテゴリ**

- TOP
- お知らせ
- 学校概要
- 学校の様子
- 生徒会
- 校長だより
- 学校・学年等たより
- PTA
- 同窓会
- 職員・OBから
- 部活動

**最新の更新**

- さようなら厨川中学校！離任式が行われました
- 教室に改装です。
- 新入生と対面しました。その2
- 『ブッチャが選ぶ今日の一言』、24
- 部活動準備を行いました。
- 新入生と対面しました。その1
- 一言堂となりました。

**さようなら厨川中学校！離任式が行われました**

19名の教職員を全校で送り出しました。久慈市や花巻市を含めた転任者と、退職者が校歌やお礼の言葉と花束を贈り厨川中学校とお別れしました。新天地で頑張ってください。厨川中学校の発展を応援してください！！




検索

検索対象期間  
● 年度内 ● すべて

<< 2012年3月 >>

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

**学校行事**

3/28 職員会議 (12)

**行事予定**

- 月間行事予定
- 年間行事予定

**配布文書**

- 配布文書一覧

**携帯サイト**



## ② データ処理の迅速化と活用

アンケートの集計作業の効率化により、時間短縮が図られた。結果が早く得られることで、その後の生徒指導に生かすことができた。保護者の要望や疑問点にも早く対応でき、信頼度を高めることができた。利便さを知ること、活用しようという職員が増えてきた。

## 6. 研究の成果と今後の課題

### (1) 成果

生徒一人一人が、自分が周りの人達に大切にされている、という実感を持つためには、実際に声をかけ、関わる以外にないと思う。今回、教師が一人一人に寄り添い、個に応じる姿勢で取り組むことができた。大きな変化があったこの一年間、生徒たちとの信頼関係を築くことができた。

### (2) 課題

昨年3月11日の震災の影響で、本校は、岩手県内部では唯一、校舎に多大な被害を受け、校舎の半分以上が使用不可能となってしまった。4月から1年間、学区内の小学校の校舎を間借りし、3学年が3カ所の別々の校舎で学校生活を送る、3校分離生活となってしまった。そのため、計画していた、職員間の情報共有のための整備が大幅に遅れてしまった。離れて生活しているからこそ、情報交換を密にすることの大切さを痛感した一年間であった。

幸いなことに、まだ未完成ではあるが、4月から新校舎で生活することができ、職員室も一つとなる。今年度、一人一人を見守り続けた組織を更に発展し、もっと情報を発信し、共有できる設備を整えていきたい。